

ひろしま県

高次脳機能センターだより

第2号

平成23年6月15日 発行



介護保険施設のレクで描かれました

CONTENTS

特集 社会的行動障害

社会的行動障害とは？……………②

高次脳機能センターでの取り組み……………③

社会的行動障害Q & A……………④

エビデンス

社会的行動障害のエビデンス……………④

利用者のページ

……………⑤

関係機関ニュース

……………⑥

ご利用案内

……………⑧

就任のご挨拶

高次脳機能センター次長 近藤 啓太



広島県高次脳機能センター次長に平成23年4月1日付で就任いたしました。専門は脳神経内科であり、これまで急性期の病院で脳出血や脳梗塞、脳炎などの脳の救急疾患の診療に主に従事してきましたが、平成18年から2年間当センターで高次脳機能障害患者の診療に従事する機会をいただきました。これまで急性期の病院から治療が完了したと思って送り出していた患者さんが、その後も自宅復帰や社会復帰のために高次脳機能障害と闘っている現状を見て、まだまだ治療は終わってはいなかったのだと大きな衝撃を受けました。このときの経験から、いつか高次脳機能障害の患者を支える医療チームの一員になりたいと思うようになりました。

この度、このように早く希望の現場に戻ってこられたことを大変うれしく思っております。高次脳機能障害で困っている患者さんやその家族の支えとなる広島県の拠点として、前センター長の丸石正治先生をはじめとした医療スタッフで創り上げ、支えてきた高次脳機能センターをさらに発展させ、さらに高次脳機能障害で困っている方々のお力になれるように頑張っていこうと思っております。皆様、よろしくご指導お願い申し上げます。



今回の特集では、高次脳機能障害の様々な症状の中でも、特に社会的行動障害を取り上げます。

社会的行動障害とは、情緒や意欲に問題をきたしたり、状況に適した行動がとれなくなる症状をいいます。情緒面では、子どもっぽくなったり、家族に依存的になったりする方もいます。怒りっぽくなったり、突然泣き出した

社会的行動障害を引き起こす原因

- ①脳機能の損傷のために、自分で自分の行動を十分に制御できなくなる場合
- ②他の認知機能障害（注意障害、記憶障害、遂行機能障害など）のために、状況をうまく判断できず結果的に不適切な言動となる場合
- ③失敗経験を積むことで自信を喪失し、心理的な負担が増えた結果、怒りや抑うつ的な症状が出現する場合
- ④「情報処理がうまくいかず不適切な言動をしてしまう→その結果パニックになり追い詰められて精神的な負担が増え、問題行動が増える→失敗が続いて自信を喪失し、抑うつ的になってしまう」といった悪循環を抱えている場合

りすることもありません。周りに対して無関心になり、無表情になることもあります。このような症状への対応を考える際に、理解していただきたい大変重要な点があります。それは、社会的行動障害が起こってくる【原因】がいくつかあるということです。同じように見える不適切な言動であっても、その【原因】によって、対応方法もずいぶん変わってきます。

それでは、原因別に、具体的な例を紹介し、対応方法を考えていきたいと思います。

①脳機能の損傷のために、自分で自分の行動を十分に制御できなくなる場合

たとえば、脳の中の「感情」をコントロールしている経路や「報酬」を感じる経路が損傷を受けると、些細なことがきっかけで大きな感情爆発を起したり、ギャンブルにのめりこんで（のめりこみ過ぎて）借金を抱えたりすることがあります。私たちは、「どうしてできないの？」「何故分らないの？」と説得しようとしたら、無理にやらせようとしてしまいがちです。し

かし、適切な行動が何故できないのかということはひとまず置いておいて、その行動が起こる「きっかけ」は何かといつことをよく観察することが重要です。そして、もし問題となる行動が起こってしまったときには、冷静に話し合えるような場を設定するよう工夫します。例えば、いつもどのようなことで感情を爆発させているだろうか？ということを観察します。可能ならばその「きっかけ」を取り除いたり、その「きっかけ」に出会う回数を少なくするように環境を整えても良いでしょう。それでも、もし感情が爆発してしまったり時には、話題や場を変えましょう。別の落ち着いた場所に移したりして、しばらく興奮が鎮まるのを待ちましょう。落ち着いてきたら、感情の爆発が不適切であったことを話し合ったり、感情爆発した相手に謝ったりする機会を持てるようにすることも良いかもしれません。

②他の認知機能障害のために、状況をうまく判断できず結果的に不適切な言動となる場合

注意障害、記憶障害、遂行機能障害などがあると、周囲から見聞きした情報を効率よく処理し適切な判断をすることが困難になります。もし、環境からの刺激が多すぎる為にパニックになってしまつ場合には、環境からの刺激を少なくすることが必要です。

私たちも、やるべきことや心配事がたくさんあって、頭の中が忙しくなっている時、普段なら流せるような何気ない一言に力チンときてしまつたりしますよね。注意障害をお持ちの方が些細な事に怒ってしまう場合には、同じようなことが起こっている可能性があります。TVを見ている時に話しかけられると、つまく注意を向けられずイライラしてしまつ、頭を整理する時間がとりたいのに、次々と指示が与えられて腹が立ってしまつ…。もし、注意障害の可能性を感じられたら、注意力の改善を図ったり、注意障害をカバーするように環境を調整することが有効です。環境調整には、例えば、TVを見ていない時に話しかける、一つずつ指示するといったことが挙げられます。記憶障害や遂行機能障害などのために不適切な言動が起こっている場合も同様で、記憶障害や遂行機能障害をカバーする方法を考えることが先決です。

③失敗経験を積むことで自信を喪失し、心理的な負担が増えた結果、怒りや抑うつ的な症状が出現する場合

高次脳機能障害に対する十分なケアを受けていない方が、社会に出た時に失敗経験を積んでしまい、抑うつ的になったり、怒りの感情を抑えられなくなつたりすることがあります。しかし、自分では、何故上手くいかないのか、

何故いつも怒られるのか、あるいは何故周囲に受け入れられないのか、十分に分析できていない場合が多いようです。

失敗経験を多く積み過ぎると、そこから立て直しの時間がかかる場合もあります。このような事態は極力避けるようにしなければなりません。しかし、一方でチャレンジしたい(させたい)というご本人やご家族の思いもあります。

もし、チャレンジした時、怒りっぽくなったり、抑うつ的な症状が出た場合には、心理的なケアが必要となります。対応方法としては、思いを傾聴したり、共感するような受容的な態度で接すること、うまくいっている対処方法とつまづいていない対処方法を明確にすることが考えられます。自分自身の苦手さについて十分な理解ができていないようであれば、リハビリを通して、苦手さの理解や対処方法を身につけるところから始めることもあります。そして、その対処方法を使って成功体験を積み重ねていけるよう環境を調整していきます。

その他、社会的行動障害として主に表れる各症状にそった対応方法は、「高次脳機能障害」とともに「ご家族の方へ」というパンフレットに詳しく載せていますので、そちらを参考にしてください。

特集 2

高次脳機能センターでの取り組み

● 作業療法での取り組み

作業療法では、社会的行動障害に対して、個別訓練やグループ訓練、環境調整を通してアプローチを行っています。例えば、欲求コントロールの低下で起こる「たばこを吸いたただけ吸って」「食べたただ食べる」ということには、たばこの1日の本数を決めること、1日単位の小遣いの設定や買った物をメモリーノートに書いて把握することをスタッフと一緒にしています。社会的行動障害は生活の中で問題行動として現れますが、脳の障害によつて起こるものだという理解がなかなか得られません。そこで、グループ訓練では、本人・家族を対象に具体的なエピソードをあげながら、自分に当てはめて考えてみたり、経験を話したりして障害の理解を深めることをしています。うまくいった対処法をメンバー同士で見出しながら取り入れられる解決法を探しています。しかし、なかなか自分自身のことから障害を簡単に受け入れられないときは家族の対応も大変難しいものがあります。どんな対応が一番有効か本人・家族と一緒に探していきたいものです。

● 言語療法での取り組み

社会的行動障害の中にもいろいろありますが、コミュニケーションや対人面での影響が少なからず生じることが多いようです。STではコミュニケーションに焦点をあてたソーシャル・スキル・トレーニングのグループ訓練を行なっています。コミュニケーションスキルを取り上げ、どう対応するかの話し合い、場面設定したロールプレイ、メンバー同士でのフィードバックなどを行ないます。回を重ねるごとにメンバーの同士の関係やグループの雰囲気も変わってきます。グループ場面での様子がその方の生活にそのまま反映されるとは限りませんが、グループという小さな社会での言動を振り返ったり、アドバイスし合うことが社会的行動障害の軽減につながればと思います。

● 心理での取り組み

心理での社会的行動障害への取り組みとしては、ご本人だけでなくご家族とも面接を行っています。家族の中で話していると感情的になってしまつ問題も第三者を交えて話すことで冷静になることもあり、対応策を考える機会の一助になればと願っています。また、

心理のグループ訓練の中では、ご本人に自分の感情や対人関係の持ち方のクセに気づくようなプログラムを用意しています。一人ではなく、他者と一緒に考え、学び合うことで社会的行動障害を乗り越える力になればと考えます。

● 支援コーディネーターより

社会的行動障害の一つとして、欲求のコントロールの低下が挙げられます。高次脳機能障害の方の中に、例えば、パチンコがやめられなくなって、返す当てのない借金をしてしまう人がいます。このような行動に対し、財産を守るために使える制度があります。「成年後見制度」です。まず、ご家族が、ご本人が家庭裁判所で手続きをします。必要な書類を整えて申し込みをしたら、家庭裁判所が、ご本人がどのくらい判断能力があるのかを確かめます。そのあと、審判というかたちで、判断能力に応じて、契約や、財産管理を補う人を決めます。その人をそれぞれ、後見人、保佐人、補助人と呼びます。

この制度は、ご本人の権利を守ると同時に、反面では、制限を加えるものでもあります。利用に際しては、メリットとデメリットをしっかりと把握しておく必要があります。詳しくは、当センターホームページ、あるいは、パンフレットをご覧ください。

Q.

頼れるところが好きで今の主人と結婚しました。でも病気になるってからは、何でも私に頼るようになり、何だか言動も子どもっぽくなったような自分ではあるはずなのに……どうしたらいい? :

A.

社会的行動障害の特徴の1つに、周囲に依存的になったり、言動が幼くなる場合があります。何でも奥さんがしてしまわず、日常生活の中でご主人の役割を決め、役割を果たす習慣をつけましょう。

例えば、お風呂のお湯をためる係などです。最初からうまくはできないかもしれませんが、でも諦めず、うまくできなかった時は、どうしてうまくできなかったかをノートに残しておき(例:「水を止めるのを忘れており出しっぱなしになっていた」、どうすれば、ご主人にとってやりやすくなるのかを考えましょう。この例の場合だと、お風呂のお湯を入れ始めたら、タイマーをセットし、鳴ったらお風呂のお湯を止めるなども良いでしょう。ご主人ができる方法を探し、役割を果たしてもらいましょう。



小6女の子の作品です

Q.

病気になる前は温厚な主人が、病気になったことにより怒りっぽくなってしまいました。まるで別人です(涙)。

A.

人と関わる中で怒りっぽくなってしまったり、反対に泣き出してしまったりということも社会的行動障害の特徴の1つです。人によって対処法は異なりますが、以下の対処法を試し、うまく怒りなどの感情を抑えることができたときは周囲の人が褒めてあげましょう。

- ① イライラしたときは、何かの行動に移す前には深呼吸をしよう
- ② イライラしたらその場から立ち去ってもらう(トイレに行くなど具体的に場所を決めておく)とわかりやすいかもしれません)
- ③ リラックスするために休憩を取ったり、鉛をなめたり、ガムを噛んだりなどしてもらおう

Q.

通信販売で自宅用エクササイズマシンを相談なく買ってしまった息子。

A.

18万円って!? しかも大きなマシンを置くスペースなんてこの家にはありませんよ!!

脳の病気によって欲しい物が我慢できない、好きなものだけ食べたがる、お金があるだけ使ってしまうなど、欲求を理性で抑えることができなくなってしまうこともあります。対処法としては、必要最小限のお金しか渡さず、息子さんに毎日使ったお金を記録してもらうなど記録したものを反省する習慣をつけてもらうことが大切です。

エビデンス

社会的行動障害のエビデンス

社会的行動障害は脳のどの部位が障害された時に出てくる症状なのでしょう? 脳は大きく大脳、小脳、脳幹に分けられ、さらに大脳は前頭葉、側頭葉、後頭葉、頭頂葉に分けられます。その脳の部位の中で社会的行動障害の原因として、もっとも代表的なのは前頭葉です。前頭葉の損傷によって固執性、感情コントロール障害、意欲低下などいろいろなパターンの社会的行動障害が出現します。

前頭葉の損傷と社会的行動障害の関係に注目を集めるきっかけとなった臨床症例として、1848年の事故で前頭葉に損傷を受けたフィネアス・ゲージの報告が有名です。フィネアス・ゲージは、事故で前頭葉が破壊された後に、記憶、言語、運動機能には問題がなかったにも関わらず、人格のみが大きく変化してしまつたと報告されています。フィネアス・ゲージは以前には見られなかったような怒りっぽく、気分屋で、短気な性格になり、彼の友人はすっかり変わってしまった彼を「もはやゲージではない」と述べたとされています。



利用者のページ

石原良彦さん特集

仕事の傍ら、走り続けてきた石原さん。雨の日も風の日も練習に励み、フルマラソンを3時間を切る速さであちこちの大会で賞を受けていた。しかし平成16年11月5日、63歳の時に事故に遭った。バイクに撥ねられ、意識不明の重体。先生から「助かっては植物人間、車椅子生活は覚悟してください」といわれ、それまでの生活は一変。現在は歩けるほどに回復しているが、記憶や感情のコントロールが難しいといった高次脳機能障害が残存している。リハビリの日々を送る傍ら、大好きなマラソンを続け、様々な大会に参加している。

今回は、石原さんご自身の言葉と、奥さまやお孫さんの思いから、高次脳機能障害についてだけでなく、「生きる」ということを皆さんと考えるみたいと思っ。

石原良彦さん（この記事はご自身で昨年書かれた文章です）

私は交通事故で頭を怪我して今は5年が過ぎています。私は走る事が好きなので怪我が直ってからでも毎日短い距離でゆっくゆっく走っています。そして3年目から1年間で走った距離が1527.9kmで4年目から1年間で走った距離が1410.1kmとなり2年間で走った距離が2938.0kmを走った事となります。それだと思いますが日本の国土の端から端までが何距離有るのかが知りたくなり、妻が電話で調べてくれましたが距離が不明な時もありました。すると次々夫婦が平成22年の正月に家族で遊びに来てくれたその時に私は、日本の総距離を知りたいとたづねると調べてくれた。それによると総距離は鹿児島県指宿市から北海道稚内市までが2896.2kmと知らせてくれた。自分が走ったのが2年間で2938.0kmなので、2つの差は41.8kmとほとんど同じ距離を走れた事がわかり、それほど走れた事がうれしくなります。これからも走る事を頑張ります。

毎日走り続ける石原さんと一緒に走り続けて来られた妻の千代子さん

不慮の事故により高次脳機能障害と言った後遺症を受けて6年が過ぎました。6年前、丸石先生にお会いした時開口一番「治るのは難しいと思います」衝撃的な言葉でした。

高次脳機能障害と言った言葉もまだ知らない私は主人が大変な十字架を背負った事を実感しました。とにかく見えない出口に向かって二人で頑張ってみようと心に決めました。一歩、一歩、それは主人には努力、私には忍耐の始まりでした。当初は「なんで幼稚園児のような事をさせるのか」「こんな事をしに来たのではない」「鬼のような顔をして怒鳴り散らし、主人に良いと思っただ事でも」「わしに恨みがあるんか」「主人には全然通じない私の気持ち……。一人で泣いて耐える事がしばしばでした。そのたびに「せつかく助かった命じゃない？あの時死んでしまっていたら私は生きる目標を失っていたのじゃないか？」自分に言い聞かせ、又、前に向いて頑張りました。私を振るい立たせてくれる力は主人の頑張っている姿でもありました。

でも、高次脳機能障害と言った壁は大きな障害で、穏やかでいると思っただ矢先、自分の思い通りにならない時は大声で怒鳴り、一見普通の人に見えても人の顔が分からない、方向が分からない、今あった出来事をすぐ忘れてしまう、などなど、まだまだ主人の努力と私の忍耐は続きます。これからも二人で遠い出口に向かって頑張っていこうと思います。

おじいちゃん、おばあちゃんのためにと Honolulu マラソンを完走した孫の大河君。この記事はその時の思い出を英語で書いて発表した時のものを一部抜粋させていただきました。

I ran for full marathon in Hawaiian Honolulu when I was fourteen. My grandfather was going to run this full marathon, but he could not run for the accident. So I run. I was uneasy if I could run because it was my first experience. I started running with big sounds of fireworks. I was able to run comfortably halfway, but I have been exhausted in the last. My grandparents waited for me in the goal. My grandmother was crying. I was glad that I could see the scene. I was barely enough to stand when I made a goal. Then I could not have moved my feet for muscular pains for a week. But I was happy that I could run for my grandfather. The next I want to win because I lost a record of time when my grandfather was cheerful.

(日本語訳は7ページへ)



当センターの担当スタッフより

(主治医)「最良のリハビリテーションは、家族の理解と共感である。」という言葉があります。しかしながら、目に見えないこの障害で、実際にご本人を理解し共感することは簡単なことではありません。石原さんご家族は、「走る」ことを通じてそれを実践されてこられました。石原さんご家族から、「大切なもの」を教えてくださいました。ありがとうございます。

(作業療法士)「どこのゴールだ！隣で走らんと早く走れ！」3年前一緒に走ったマラソン大会の一場面である。しかし、ゴールした後の石原さんは、満面の笑顔でレース回顧をしている。まさに、走ることに生きること満喫している。障害があるなしに関わらず、今をしつかりと挑戦している姿は、脱帽の一語に尽きる。そして今では、「畑仕事やお遍路、カラオケ」など多岐に渡り挑戦し続けている。その影には、いつも妻や家族の支えがあり、挑戦する源になっているのだらう。

(言語聴覚士)「石原さんと初めてお会いした6年前、「自分にはリハビリなど必要ない」と大声で強く拒否されていました。現在では走ることに楽しさや旅行の話、お孫さんの話など笑顔で教えて下さいます。大変な事故に遭っただけで今こうして走れること、家族に感謝している、といったお話も。ここに来るまで石原さんがどれ程の努力をされてきたか、奥様や周囲の方が支えながらどれ程頑張ったか、頭が下がる思いです。「自分のペースで頑張る」との石原さんの言葉にはとても重みを感じます。

関係機関ニュース

家族会情報

脳外傷友の会第11回全国大会は長野県で開催

開催日：平成23年10月14日(金)・15日(土)
場所：志賀高原レイクホテル並びに
山内町総合98ホール

お知らせ

おすすめの1冊

「日々」ウジ中

主婦の友社 柴本礼著

高次脳機能障害とは「外から見てわかりにくい障害」と言われますが、このわかりにくさを、とてもわかりやすく説明しているのがまさにこの本です。

（高次脳機能障害を）「え？ご存じないですか？もしかしたら あなたも明日 なるかもしれないんですよ」という箇所も、ズバツとこの障害を表現しています。

くも膜下出血の後遺症で高次脳機能障害になった男性の家族の泣き笑い、そして明日も生きていくこととする姿勢がマンガで生き生きと描かれています。とても読みやすいので、活字が苦手な人でも、この家族に惹きこまれていくこと間違いなし…お薦めの一冊です。

お知らせ

図書館の本の紹介

蔵書の一部を紹介いたします。本の貸出をご希望の方は、スタッフに声を掛けてください。尚、貸出期間は2週間までとさせていただきます。

書籍名	出版社
目印はフォーク！ カーフの脳損傷リハビリ日記	クリエイツかもがわ
記憶の1冊 なせヘンリー・Mの記憶は消えたのか	白場社
奇跡の脳 あなたの脳も危ない 福祉の谷間からの告発	新潮社
里絵のこころ絵日記 認知障害者の心の風景	清流出版
こころ時計 哲司15歳 障害児の思春期と葛藤	福村出版
ふたたび美しく生きていくためのメッセージ 後天性脳損傷の子どものもつ家族との対話	ウインかもがわ
それでも脳は学習する	クリエイツかもがわ
脳外傷の子どものため 親と教師のためのガイドブック	講談社
咲くつばね 「頭痛×脳」で病院へ行こう	河出書房新社
脳のなかの倫理	紀伊国屋書店
海のある風景	三輪書店
わかりやすい 小児の高次脳機能障害対応マニュアル	診断と治療社
理解できる高次脳機能障害	三輪書店
高次脳機能能を鍛える	全日本病院出版会
高次脳機能障害マスターシリーズ 1〜4	医園薬出版株式会社
やさしい脳梗塞後遺症と リハビリテーションの自己管理	医薬ジャーナル社
脳のリハビリテーション「1」「2」	協同医書出版社
マンガ家が描いた失語症体験記	医園薬出版株式会社

勉強会情報

家族セミナーのご案内

高次脳機能センターでは、毎月2回、高次脳機能障害者やそのご家族、その他関心をお持ちの方を対象に、次のおり学習会を開催しています。

場所：広島県立障害者リハビリテーションセンター 医療センター

2階 歩行分析室

●特別企画

NPO法人サポートネットひろしま 理事長 濱田小夜子さん講演会

「高次脳機能障害者とその家族の軌跡」
日時：6月21日(火)
14:00〜15:00

●脳損傷とその後遺症について

日時：7月1日(金)、7月19日(火)
14:00〜15:00

●リハビリテーションと本人への関わり方について

日時：8月5日(金)、8月16日(火)
14:00〜15:00

●福祉制度について

日時：9月2日(金)、9月20日(火)
14:00〜15:00

参加を希望される方は、参加申込書にご記入のうえ、高次脳機能センターにお申し込みください。当日参加も可能です。

突撃取材

障害者支援施設 あけぼの

同じ県り八敷地内に、障害のある方々の自立に結び付く社会的り八、職業的り八等専門的り八ハビリテーションサービスを提供することを目的とした障害者自立支援法に基づく施設 あけぼのがあります。

この4月から、事業の定員枠の見直しをされ、より高次脳機能障害の方が利用しやすくなりました。具体的には、自立訓練（機能訓練）27名、自立訓練（生活訓練）12名、就労移行支援6名、生活介護35名です。さらにPT（理学療法士）が1名増員され2名になっています。

1 機能訓練と生活訓練

身体障害の方への機能訓練と高次脳機能障害の方への認知面の訓練を行います。日常生活に必要なADL動作の訓練や身体障害者用の手動式自動車を活用した運転免許取得も支援します。

2 在宅生活への移行支援

利用者の障害の状況に応じて、在宅生活への移行を支援します。

3 復学支援や他県への地域生活移行

学校等へ受け入れに関する具体的な提案や助言をします。他県へ復帰される場合には、その地域の支援機関と連携します。

4 新規就労と復職の支援

障害に応じた就労の支援を行います。八戸ワークや就業・生活支援センターと連携します。就労や復職される事業所に対し、利用者受け入れの取り組みを支援します。

5 住宅改修と福祉用具の支援

障害者自立支援や介護保険制度の利用を支援します。住宅探しや住宅改修について利用者や建築業者等に対し助言します。補装具・日常生活用具・介護保険福祉用具の利用を支援します。

6 長期入所利用者のQOL支援

在宅復帰が困難な方へ潤いのある生活を提供します。入所者の趣味活動や外出を支援します。一定程度の重い障害のある方へ介護を行います。

7 成年後見制度の利用支援

認知面に重い障害のある方に、適切な財産管理や福祉サービスを利用するための成年後見制度について助言します。

8 専門のパソコン講師招聘

あけぼの職員の他に、外部からパソコン教室の専門講師を招いて、より分かりやすく、高い目標を持った訓練を提供します。

以上、あけぼのの支援について紹介させていただきます。ご利用については、直接あけぼのに問い合わせるか、高次脳機能センターコーディネーターまでお問い合わせください。



突撃インタビュー

当事者に聞きました

- ①発症後、しんどかったことは何ですか？
- ②嬉しかったできごとを教えてください。
- ③支援機関に望むことは何ですか？
- ④魔法使いが現れて、たったひとつだけ欲しいものをあげると言われたら？
- ⑤愛する人に一言

50代女性

- ①持続力がなくなりました。料理をしていても時間がかかり、途中で休憩をしなければならなくなりました。
- ②自分の時間が持てるようになった。事故に遭うまでは、仕事をしていたのでできなかったが、今は、好きな手芸をすることができた。
- ③高次脳機能障害は脳の障害。脳は体の一部。身体障害者手帳の所持者と、精神障害者福祉手帳の所持者の社会補償に差があるのはおかしい。
- ④健康
- ⑤自分にできることは、一生懸命頑張つてやっていきたい。

50代男性

- ①家を出て入院をしなければならなかったこと。
- ②家族と一緒にリハビリをしてくれたこと。
- ③リハビリが3か月というのが納得できない。
- ④病気になる前に戻してほしいと思ったり、でも、自分がきちんと健康管理をしていなかったためになったので、よい勉強になったと思ったり…まあ特になしですね。
- ⑤特になし

お知らせ

研修会案内

平成23年度高次脳機能障害研修会

内容はまだ未定ですが、今年度も次の日程で行います。

予定を空けておいてください。

日時：平成23年11月23日（水・祝）

場所：広島YMCA国際文化ホール

利用者のページで登場した石原さんのお孫さんの文章の日本語訳です

僕が14歳の時にハワイのホノルルでフルマラソンを走りました。かつてはおじいちゃんもこのフルマラソンを走っていたのですが、事故で走れなくなりました。僕が走りました。号砲と共にスタートし、折り返し地点までは順調に進みましたが、フルマラソンは初めてだったため、ラストが非常に苦しかったのを覚えています。ゴールに近づくと、おじいちゃん・おばあちゃんがゴール地点で待つてくれている姿がみえました。おばあちゃんは涙を流して迎えてくれました。その後数週間筋肉痛に見舞われ、動くこともままならない状態でした。でも、おじいちゃん、おばあちゃんのために完走できたことは、すごく幸せでした。次回はおじいちゃんが元気だった時の記録を抜きたいと思います。

スタッフの紹介

今年四月から、再び高次脳機能センターで診察をすることになった近藤医師のご紹介です。



イメージキャラクター

近藤 啓太 先生

Q 二年ぶりのセンターの印象はいかがでしょう？

A 職場の第一印象は「みんなかわつてないなー」というものです。病棟は師長さんを含め入れ替わっている人も多く、新しい人とも仲良くやっていければと思っています。自分が二年前に診させてもらっていた患者さんにも久しぶりに会って、皆それぞれに良くなっていて、大変うれしく思いました。

Q この二年間、どちらで修業を積んでおられたのですか？

A 高次脳機能障害に関する研究論文を仕上げるために大学院に行き、なんとか博士号をとることができました。また広島大学病院脳神経内科の病棟医としても働いていました。

Q その間に、豪邸と子宝を手に入れたと聞きました。宝くじでも当たったのですか？

A 宝くじが当たればどんなに楽になるか……。住宅ローンと三人の子育てのためにこれからは全力で働かなければいけませんね。

Q センターでは、紳士ですが、ご自宅での役割は？

A 夕食後の食器洗い、風呂洗い、子供の風呂入れ、奥さんへの肩揉みなどですね。日中の家の仕事を一気に引き受けている奥さんには感謝です。

Q 傍から見ると、失敗とは縁がないように思えるのですが、穴があつたら入りたいほどの失敗はありますか？

A 失敗ではないのですが、面白い話が出れないので悩んでいます。

Q 何か自慢したいことについてお話を聞かせてください。

A うーん。自慢はないですねえ……。

Q 大切にしておられるものは？

A 体が資本なので、まずは自分の健康です。その為には少し痩せないとイケないですね。

Q 最後に、先生のモットーは何でしょうか？

A 人との和を大切にすること、常に心がけています。みんなと協力して頑張っています。

ありがとうございました。

診療案内

□ 診察の流れ

予約制になっております。予めお電話でご予約の上ご来院ください。

① 電話予約

082-425-1455(代表) 高次脳機能科受付 内線237

受付時間 月～金 9:00～17:00

専門のコーディネーターが対応します。

相談のみでもお受けします。

② 高次脳機能科

脳神経に関する専門医が診察します。

	月	火	水	木	金
9:20 ～ 12:00	近藤 啓太	丸石 正治	近藤 啓太	祢津 智久	近藤 啓太

診察をスムーズに行うため、現在診療を受けている医療機関の主治医と相談のうえ、可能であれば紹介状・頭部CTやMRI等の画像をお持ちください。

③ 入院・リハビリテーション・社会復帰支援・相談、家族支援

高次脳機能障害の病態に応じて医療と福祉の連続したサービスを提供します。

編集後記

前回の発行から期間が空いてしまいましたが、やっと第2号を発行することができました。この間、東日本では未曾有の大震災が起こり、私たちも自分たちに何かできることはないかと悩み、迷い、随分とやりきれない思いにもなりました。今、私たちにできることは目の前の利用者さまに対して良いサービスを提供することですので、決意を新たにより一層がんばっていきたいと思います。よろしくお願ひ致します。また、機関紙に関するご意見やご感想がありましたら、お教えいただければ幸いです。

(S)